

第2部 分かりやすい防衛大綱の解説

北九州市立大学 基盤教育センター 准教授
戸蒔仁司（とまき ひとし）

1. 「動的防衛力」とは何なのか

一言で言えば、「基盤的防衛力構想⇒動的防衛力」。

（ただし、「動的防衛力とは何か」についての辞書的な説明はない＝全体を読み込む必要）

(1) 新大綱で動的防衛力に直接関連した部分（その1）

「今後の防衛力については、①防衛力の存在自体による抑止効果を重視した、従来の「基盤的防衛力によることなく、各種事態に対し、②より実効的な抑止と対処を可能とし、…、活動を能動的に行い得る動的なものとして、…、即応性、機動性、柔軟性、持続性及び多目的性を備え、軍事技術水準の動向を踏まえた高度な技術力と情報能力に支えられた動的防衛力を構築する。

…、

本格的な侵略への備えについては、不確実な将来情勢の変化に対応するための最小限の専門的知見や技能の維持に必要な範囲に限り保持することとする。」

⇒この記述から把握できること

イ) 下線部①、要するに従来の基盤的防衛力構想から離脱する

別個所に、「最小限の専門的知見や技能の維持に必要な範囲に限り保持」と補足。

→今後10年間以内で、基盤的防衛力関連の防衛力が大幅に削減されてゆく見通し

ロ) 下線②、動的防衛力は、各種事態に対する実効的な抑止と対処を目的として、即応性、機動性、柔軟性、持続性及び多目的性を備えたものになることがイメージされている。

※「即応性、機動性、柔軟性、持続性、…、情報能力に支えられた」部分は16大綱から継承。

上記から、①「基盤的防衛力にはよらないこと」、

②「実効的な抑止と対処」を目的とし「活動を能動的に行い得る動的なもの」

(2) 新大綱で動的防衛力に直接関連した部分（その2）

「防衛力を単に保持することではなく、②平素から情報収集・警戒監視・偵察活動を含む適時・適切な運用を行い、我が国の意思と高い防衛能力を明示しておくことが、…、抑止力の信頼性を高める重要な要素となってきた。このため、①装備の運用水準を高め、その活動量を増大させることによって、より多くの能力を発揮することが求められており、このような防衛力の運用に着眼した動的な抑止力を重視していく必要がある。」

⇒この記述から把握できること

イ) 下線①、活動量を今以上に増大、能力を積極的行使、強力な展開力を明示、抑止に役立てる。

ロ) 下線②、分野を重点化する

ハ) その際、ISR強化による常統監視を特に強調

(3) 新大綱で動的防衛力に直接関連した部分（その3）

「本格的な侵略事態への備えとして保持してきた装備・要員を始めとして自衛隊全体にわたる装備・人員・編成・配置等の抜本的見直しによる思い切った効率化・合理化を行った上で、②真に必要な機能に資源を選択的に集中して、防衛力の構造的な変革を図り、①限られた資源でより多くの成果を達成する。」

⇒この記述から把握できること

イ) 下線①「限られた資源でより多くの成果を達成する」は、16大綱から踏襲。

ロ) 下線②「真に必要な機能に資源を選択的に集中」部分が特徴的

まとめ。「動的防衛力とは何か？」

- ①資源を特定の重要分野に集中化しつつ、
- ②ISR を含む運用水準を高め、
- ③我が国の意思と高い防衛力を明示することによって、
- ④周辺国に対する抑止力と対処能力を強化するための総合的防衛力

2. 動的防衛力は何を目指すのか（16大綱の方向性との違いは何か）

→動的防衛力は、16大綱の「多機能・弾力的・実効性を有する防衛力」の強化・発展バージョン。

ただし、「力点のウェイト付け」が大きく異なっているのが特徴。

=特に、南西方面の島嶼防衛と、周辺海空域の安全確保、そして、全般を通じた常統監視の徹底。

※動的防衛力が16大綱の対処能力を強化・発展しつつ、なぜ、力点のウェイト付けが異なるのか？

=なぜ、南西の島嶼防衛、周辺海域の安全確保、ISR常統監視の強化に焦点が当てられたか？

→特に重要なのが、16大綱後、現在に至るまでの、我が国周辺の安全保障環境の変化（**資料**参照）。

(1)弾道ミサイル問題を含めた北朝鮮問題をめぐる緊張の激化。

(2)ロシア極東方面における軍事動向の活発化。

cf.ボストーク 2010、北方領土に対する固執・硬直化、強襲揚陸艦購入・配備

(3)中国海軍の我が国周辺への海洋進出傾向の高まり ←新大綱に直接影響

例)②2005年、東シナ海の樫ガス田周辺、5隻の艦隊が旋回

④2008年10月、計4隻の艦隊が津軽海峡通過、太平洋南下、沖縄沖通過、日本を周回した。

⑤2008年11月、ルージュウ級駆逐艦等の計4隻が沖縄沖を通過。

⑥2010年4月、ソブレメンヌイ級駆逐艦2隻を含む計10隻からなる艦隊が、沖縄沖を通過し、

沖ノ島島西方海域で大規模総合演習を実施。

※活発化は主に2000年以降の現象で、16大綱策定時以前から始まっていた。

ただし、初期は行動範囲の中心が東シナ海周辺に置かれていた

⇒2005年以降は南西諸島以東のより外洋に向かう傾向がある。

=16大綱以降の新しい動向（日本列島を通過し西太平洋にまで拡大しつつある）

※中国の海洋戦略

「第1列島（防衛）線」⇒「第2列島（防衛）線」における海上優勢

「接近阻止・領域拒否能力（A2/AD）」の重視

最初の間

⇒なぜ、南西の島嶼部防衛、周辺海域の安全確保、ISR常統監視の強化に焦点が当てられたか、

3. 課題（時間があれば、触れます）